兵庫県三田市におけるオープンガーデンの活動と会員の意識・行動の変化に関する研究

The Study of the Activity of 'Open Gardens' and the Change in the Member's Consideration and Action in Sanda City, Hyogo Pref.

岩朝 英恵* 上甫木昭春**

Hanae IWASA Akiharu KAMIHOGI

Abstract : In this study, in order to search the strategy for continuation and spread of Open Gardens(OG) practice, we paid attention to an attribute (an OG dispenser and an inexperienced person) of the member who constituted a practice group in Sanda City, Hyogo Prefecture and grasped a process of OG practice and activity related to OG, and a change of a consciousness and an action through it. As a result, in a process of activity, it gave a scale and the popularity, but showed a slight stagnation in a membership and OG practice number of houses. On the other hand, there was not approximately a difference of a change of consciousness and an action by attribute distinction. And there was increase of public role awareness of a garden and green quantity of garden space, and they were caused by OG practice and participation to a workshop and visit related to OG. In addition, we understood that The gardening activity to perform in a group was higher in role awareness of a garden than to perform in an individual.

Keywords: open garden, town planning, member attribute, change in garden space, regional community

キーワード: オープンガーデン, まちづくり, 会員属性, 庭空間の変化, 地域コミュニティ

1. はじめに

近年、緑地の減少やコミュニティの希薄化を受けて¹⁾, 土地に由来する地域資源や住民によって築かれた地域の個性を生かすと共に、地域コミュニティを育む緑豊かなまちづくりが地方自治体により行われている²⁾。そのまちづくりには、公園や街路樹といった公共の緑が活用されてきたが、最近では市民にとって一番身近な緑である個人の庭の緑も、生垣などによる街路の景観形成機能や庭木などによる地域の生き物誘引機能といった公的役割を担うことで注目されている^{3), 4)}。このような個人の庭の緑の公的効果をさらに向上させる活動として、オープンガーデン(以後、OG と示す)が注目されている^{5), 6)}。

日本における OG は、英国で 79 年間続くナショナル・ガーデン・スキームの活動を基に、個人庭園を一般の人に公開する活動として各地の愛好家の中で 1990 年代後半から盛んに行われている⁶⁾。活動団体のコンセプトはほぼ同様で、庭の様相を鑑賞しようと共に、会員同士の交流、会員と地域住民や地域外からの訪問者との交流、地域の自然環境を育て守ることである⁷⁾。この目的が行政の掲げるまちづくりに合致すると共に、実際に OG により庭づくりをさらに熱心に行い様々な人々との交流を生むことから、最近では行政が事務局の設置といった支援を行い、活動団体と共同で行う例もみられるようになった⁸⁾。一方、園芸愛好家による個人的な活動に着目すると、個人の庭及び隣接する街路空間において街路景観やコミュニティ形成といった観点から、庭先や街路空間の植物栽培の実態についての研究^{9)~14)}が行われている。

現在 OG に関する研究は、OG 開催そのものに重点を置き、OG の訪問者を対象にした行動特性の把握¹⁵⁾や来訪による地域経済効果を探ったもの¹⁶⁾、OG の実施者を対象にした公開庭の実態や OG 開催によりコミュニティ形成や庭づくりを熱心に行う効果を探る研究⁵⁾や行政支援のあり方を示した研究¹⁷⁾などがある。

ここで OG を主催する団体には、OG を実施した経験のある会員と、OG を実施した経験はないが OG 開催の手伝いや講習会などの OG の関連活動に参加する会員が含まれている。今後、OG の実施を継承及び拡大していくためには、その運営団体である会員を増やすことが重要であるが、まずは OG 実施団体における OG の実施及び関連活動の推移や、OG 未経験者であっても活動に係わることで何らかの影響を受けていると想定されることから、その属性(OG 経験の有無)に着目し会員の意識や行動の変化を探る必要がある。

そこで、本研究では「三田花と緑のネットワーク」を事例として OG の実施を継承及び拡大していくための方策を探るために、時系列的・空間的な視点から①OG の実施及び関連活動の推移を把握するとともに、会員属性(OG 経験の有無)に着目して②OG の実施及び関連活動を通じた会員の意識・行動の変化を把握することを目的とした。

図-1 三田市の位置及び活動拠点地域

*住友林業緑化株式会社 **大阪府立大学大学院生命環境科学研究科

2. 研究方法

本研究対象は、OG 実施者以外の会員も含み、2000 年開始当初から活発かつ継続的に活動を行っている、図－1 に示す兵庫県三田市に拠点を置く「三田花と緑のネットワーク」の個人会員 219 名全てとした。活動内容としては、市のまちづくりイベントと協賛して行う年に一度の OG 開催（個人的には通年）の他、講習会などの関連活動を年間通じて行っている。まず、OG の実施及び関連活動の推移を把握するため、会代表へのヒアリング調査（2005 年 4 月）と会報や OG 開催当日のガイドマップなどによる文献調査を行った。その後、①OG の実施及び関連活動の推移、②OG の実施及び関連活動を通じた会員の意識・行動（庭の役割、庭空間、コミュニティ形成など）の変化について把握するため、個人会員 219 名（一世帯 1 通としたため同住所の 4 名は除く）を対象に表 1 に示すアンケート調査（2005 年 8 月）を郵送法を用いて行った。その結果、有効回答数は 76 部で、回収率は 34.7%であった（表－2）。解析に当たっては、各項目で OG 実施の有無別に集計整理し、会員のプロフィール、会員の入会目的・関連活動状況、庭の改造では、カイ二乗検定を、庭の構成要素の変化、庭の役割意識の変化、コミュニティの変化では 2 つの属性の母平均に差があるかどうかを有意水準 5%で両側検定した。なお、庭の役割意識の変化とコミュニティの変化については、OG 実施又は会入会の以前（「していなかった」～「よくしていた」の 4 段階評価）と以後の

表－1 アンケート項目

1. 会員のプロフィール
1-1、回答者属性
・性別／・年齢／・居住年数／・入会年／・入会目的 など
1-2、OG の実施状況（OG 実施者対象）
・OG を開催した年
・OG 実施のきっかけ
2. OG の実施および関連活動を通じた会員の意識・行動の変化
・庭の役割意識
・庭の構成要素
・庭の改造
・近隣住民とのコミュニティ
3. OG 実施への今後の取り組みについて
・今後もOGを続ける、または再度行うか（実施者対象）
・今後OGを行いたい（未経験者対象）

変化量（「しなくなった」～「するようになった」の 5 段階評価）を聞くことで、潜在的にあった意識やコミュニティレベルを把握した上でどれくらいの変化があったのかを把握した。

3. 結果

（1）「三田花と緑のネットワーク」における OG の実施及び関連活動の推移

文献調査とヒアリング調査とにより得られた OG の実施及び関連活動の推移を表－3 にまとめた。2000 年以前は園芸仲間でガーデニングを楽しんでいたメンバーが、2000 年には市のまちづくりイベントに協賛する形で OG を開始し、OG 実施 4 軒、会員数 82 名の「三田花と緑のネットワーク」を発足させ、OG 以外にも三田駅前の緑化活動やつる篋編みの講習会を始めている。行政支援では、三田市による OG 当日の循環バスや駐車場の提供がある。そして、2001 年は、OG 先進事例への視察などを行い、2002 年はホームページを開き、OG を紹介した「The Green Pages」を発刊するなど、活動を軌道にのせている。これらに伴い個人会員数も 2001 年で 138 名、2002 年で 251 名と大幅に増加している。しかし実施軒数においては、2001 年で 86 軒と前年に比べ飛躍的に伸びるものの、2002 年は 89 軒とあまり変動がない状態である。それ以降の 2003 年は、兵庫県下の OG 団体を集めたフォーラムを主催し、2004 年には、兵庫 OG ネットワークを

表－2 アンケート配布・回収結果

	アンケート 配布地域	配布数	回収数	OG 実施者の 返答数
三田市内	ウディタウン	54	26	19
	フラワータウン	39	14	10
	つつじヶ丘	12	5	4
	学園	3	0	0
	友が丘	33	10	3
	三田市郊外	18	5	5
三田市外	篠山市	1	0	0
	神戸市北区	48	13	9
	西宮市	6	2	0
	川辺郡	1	1	1
	神戸市垂水区	1	0	0
	県外	3	0	0
合計		219	76	51

表－3 OG の実施及び関連活動の推移

開催年	個人 会員数	OG の実施数		関連活動の内容(●)と行政支援(*)
		実施軒数 (実施/会員の %)	積算軒数 (前年度からの 増加率%)	
2000 年以前	-	-	-	●園芸仲間のグループでガーデニングを楽しむ
2000 年	82	4(5)	4(-)	●市のまちづくりイベントに協賛する形でOGを開始 ●三田駅前で緑化活動やつる篋編みの講習会 * 市がOG当日の循環バスや駐車場を用意
2001 年	138	86(60)	87(-)	●OG先進事例(長野県小布施町)へ視察旅行
2002 年	251	89(33)	141(62)	●ホームページを開く ●庭の紹介本、第1刊「The Green Pages」を発刊 * 市が「The Green Pages」を発送
2003 年	235	114(45)	188(33)	●OG循環バス(有料化)を用意し、ガイドマップ(有料化)を自主制作 ●市に代わり「The Green Pages」を発送 ●県下のOG団体を集めた、第1回「OGがつなぐ兵庫花と緑のまちづくりフォーラム」を主催 * フォーラムに市や県が共催 * 市に代わり県がOGの循環バスを用意
2004 年	242	109(41)	228(21)	●県下のOG団体と「兵庫OGネットワーク」を発足 ●市や三田造園緑化組合などと統合して「三田まちなみガーデンショー実行委員会」を設立し、OGがその一部門となる ●「ビオトープ・フォーラム」で代表が事例報告
2005 年	223	106(43)	244(7)	●兵庫OGネットワークが第2回「OGがつなぐ兵庫花と緑のまちづくりフォーラム」を主催 ●オーストラリアブルーマウンテン市と国際交流 ●第2刊「The Green Pages II」を発刊

発足させ、2005 年は、国際交流を行うといったように、他団体・他地域との連携が活性化している。行政支援では、フォーラムへの共催や訪問者増加に伴う OG 循環バスの増便に県の支援が加わりより強い連携がみられる。2003 年以降の個人会員数は、2002 年の 251 名を最大に 20 名前後の増減を繰り返している。実施軒数においては、2003 年で 114 軒、2004 年で 109 軒、2005 年で 106 軒と 2002 年から 20 軒前後増えているが、その後ほぼ変動がない。また、OG の積算軒数をみると、2001 年から 2002 年にかけて増加率は 62%と高いが、2002 から 2005 年までの前年度からの増加率は、それぞれ、33%、21%、7%と減少しており新規軒数が低下していることがわかる。

以上を総合すると、2000 年から 2002 年までは、OG の実施及び関連活動を会内で軌道にのせ、地域内で啓発するといった第 1 段階であるといえ、2003 年から 2005 年は、行政との連携をさらに強め、他団体・他地域とのより広い範囲での交流が生まれた第 2 段階に進展したといえる。これらの OG の実施及び関連活動の活性化と共に、当初は個人会員数や実施軒数も増したが、ここ数年間は停滞している状態であるといえる。

（2）OG の実施状況

（i）OG 実施の時系列的変化

表-4 は、アンケート回答者の OG 実施の時系列的変化を示したものである。これによると、初めて実施した軒数は 2003 年をピークに減少傾向にある。一方、前年度からの継続軒数の割合は増加傾向にあり、2004 年、2005 年の 2 年間連続の実施者は約 6 割である。また、実施回数が 1 回のみのケースは約 2 割と少ない。これらより、実施者が固定化される傾向にあるといえる。

（ii）OG 実施の空間的变化

実施軒数の拡がり方を把握するために、実施軒数が多いウディタウン（図-2-1）とフラワータウン（図-2-2）の 2 地域別での空間的变化を捉えた。ウディタウンでは、2001 年～2004 年の間に 2 箇所 で年 3 軒前後の地縁的拡がりが見られるが、その他は散らばりながら拡がっている。フラワータウンでは、2001 年～2002 年の間に 1 箇所 で 14 軒の地縁的拡がりが見られるが途中でなくなり、その他は散らばりながら拡がっている。これらより、OG の拡がり方は、会員同士の繋がりで行ってきた分散的拡がりといえ、隣近所の繋がりで行ってきた地縁的拡がりは限定的でまだ少ない状況であることがわかる。

（iii）OG 実施のきっかけ

図-3 に示す OG 実施のきっかけは、自由記述の回答（有効回答 38 名）を整理した結果、「人からの誘い」といった誘発的な

表-4 OG 実施の時系列的変化

初回実施年	実施パターン						実施軒数
	00	01	02	03	04	05	
2000	●	●	●	●	●	●	1
	●	-	-	-	-	-	2
2001	-	●	●	●	●	●	5
	-	●	●	●	-	-	1
2002	-	●	-	-	-	-	1
	-	-	●	●	●	●	8
2003	-	-	●	●	●	●	2
	-	-	-	●	●	-	8
2004	-	-	-	●	●	-	1
	-	-	-	●	-	●	1
2005	-	-	-	●	-	-	4
	-	-	-	-	●	●	9
初回軒数合計	3	7	10	14	11	6	51
年度実施合計	3	8	17	31	34	40	
前年度継続	軒数	-	1	7	17	23	31
	%	0	13	41	55	68	78

注）●は当該年に OG の実施があったことを示す

答えが 58%と過半数を占めている。一方、「人との交流を求めて」（18%）、「人に庭を見てもらいたい」（16%）、「庭の向上を求めて」（11%）の 3 つは自発的な答えと捉えることができ、46%を占めている。その他の「OG を訪問して」（8%）や「緑化推進活動に参加して」（5%）は低い。これらより、誘発的な答えが自発的な答えに比べ高く、OG を実施するにあたり、「人からの誘い」が重要であることがわかる。

（3）OG の実施経験別にみた回答者の特性

（i）会員のプロフィール

会員のプロフィールを示したものが表-5 である。各項目のカテゴリ間全てにおいて OG の実施経験の有無による有意差はなく、性別では、女性が 82%と圧倒的に多く、年齢では、40 代、50 代が共に約 2 割で、60 代が約半数を占めている。居住年数は、5 年以上 10 年以下と比較的少ない年数の居住者が 41%と多い。敷地面積は、200㎡を超える割合が約 7 割を占めている。

（ii）入会目的

入会目的は、表-6 に示す項目について、複数回答としたところ、それぞれのカテゴリ間において OG の実施経験の有無による有意差はなく、全体の傾向として「庭づくりを楽しむ人」と知

図-2-1 ウディタウンの実施軒数推移

図-2-2 フラワータウンの実施軒数推移

図-3 OG実施のきっかけ

表-5 会員のプロフィール

		OGの実施経験数		合計度数 (%)
		有 (%)	無 (%)	
性別	男性	12 (24)	2 (8)	14 (18)
	女性	39 (76)	23 (92)	62 (82)
	合計	51 (100)	25 (100)	76 (100)
年齢	40代	14 (27)	4 (16)	18 (24)
	50代	10 (20)	7 (28)	17 (22)
	60代	22 (43)	13 (52)	35 (46)
	70代以上	4 (8)	1 (4)	5 (7)
	不明	1 (2)	0	1 (1)
	合計	51 (100)	25 (100)	76 (100)
居住年数	5年以下	5 (10)	2 (8)	7 (9)
	10年以下	27 (53)	4 (16)	31 (41)
	15年以下	10 (20)	4 (16)	14 (18)
	20年以下	6 (12)	6 (24)	12 (16)
	21年以上	2 (4)	9 (36)	11 (14)
	不明	1 (2)	0	1 (1)
	合計	51 (100)	25 (100)	76 (100)
敷地面積	200㎡以下	10 (20)	9 (36)	19 (25)
	250㎡以下	16 (31)	4 (16)	20 (26)
	300㎡以下	8 (16)	4 (16)	12 (16)
	上記以上	16 (31)	6 (24)	22 (29)
	不明	1 (2)	2 (8)	3 (4)
	合計	51 (100)	25 (100)	76 (100)

り合う」が80%と高く、「庭づくりに関する情報を収集する」が54%、「将来的にOGを行なう」は13%と低い。また、自由記述をまとめると「まちの環境を良くする」と答えた人が7%確認できた。これらより、「庭づくりを楽しむ人と知り合う」という主要な目的と絡んで「庭づくりに関する情報を収集する」という人が多いことがわかった。

(iii) 関連活動状況

OG以外の関連活動状況は、表-6に示す項目について、複数回答としたところ、それぞれのカテゴリー間においてOGの実施経験の有無による有意差（近似有意確率0.011）があったのは「視察・見学会」のみで、OG未経験者の参加（94%）が有意に高いことがわかった。その他の全体の傾向をみると、「研修・講習会」が71%と高く、庭づくりに関する情報が得られるためと推測できる。「緑化推進活動」は31%、「公社園芸・社共セミナー」は27%と「研修・講習会」や「視察・見学会」の約半分の割合となっている。これらより、全体的にOG以外の活動にも「研修・講習会」や「視察・見学会」を中心に積極的に参加している状況にあるといえる。

4. OGの実施及び関連活動を通じた会員の意識・行動の変化

(1) 庭の役割意識の変化

庭の役割意識の変化（図-4）では、OGの実施経験の有無で

表-6 会員の入会目的と関連活動状況

		OGの実施経験数		合計度数 (%)
		有 (%)	無 (%)	
入会目的	庭づくりを楽しむ人と知り合う	39 (83)	18 (75)	57 (80)
	庭づくりに関する情報を収集する	25 (53)	13 (54)	38 (54)
	将来的にOGを行う	7 (15)	2 (8)	9 (13)
	まちの環境を良くする	2 (4)	4 (25)	5 (7)
	サンプル数	47	24	71
関連活動	研修・講習会	28 (78)	9 (56)	37 (71)
	視察・見学会	21 (58)	15 (94)	36 (69)
	緑化推進活動	9 (25)	7 (44)	16 (31)
	公社園芸・社共セミナー	10 (28)	4 (25)	14 (27)
	広報活動	6 (17)	2 (13)	8 (15)
	サンプル数	36	16	52

注) 色の部分は、有意差があった項目を示す

図-4 庭の役割意識の変化

有意差（近似有意確率0.023）がみられたものは、以前の意識の「実用空間」としての役割をOG未経験者の方が有意に高く認識していることのみであった。そこで全体平均をみると、OGの実施及び関連活動以前から高く意識されていた「園芸空間」（3.22）、「季節変化を楽しむ空間」（3.14）としての意識は、OGの実施及び関連活動による変化量もそれぞれ（+1.29）,（+0.97）と高く、以前にも増して園芸活動で季節を楽しむ役割意識が高くなっている。また、OGの実施及び関連活動以前にそれ程高くなかった「まちなみの一部となる空間」（2.91）、「家族以外の人との交流空間」（2.73）、「生物を誘引する空間」（2.62）のOGの実施及び関連活動による変化量は、それぞれ（+1.1）,（+0.85）,（+0.82）と公的機能を担う役割意識がやや高くなっていることがわかる。これらにより、OGの実施経験の有無に関係なく現在は以前に比べ、会員全体で、園芸活動で季節を楽しむ役割意識がより高くなっていると共に、「まちなみの一部となる空間」や「生物を誘引する空間」といった地域の緑環境を形成する空間や、「家族以外の人との交流空間」といった地域のコミュニティ形成のきっかけとなる空間としての公的な役割意識がやや高くなっているといえる。庭を園芸活動の場とする役割意識の向上は、これまでのOGに関する研究にある、会員の約半数が見られることを励みとして前向きな庭づくりを行っている⁵⁾といった結果と同様である。また、庭を公的役割を果たすものと捉える意識の向上では、OG

注) 破線のマルは、有意差があった項目を示す

図-5 庭の構成要素の変化

注) 破線のマルは、有意差があった項目を示す

図-6 庭の改造

に関する研究にある、街の美化に貢献できた¹⁷⁾という意見や、園芸愛好家による個人の前庭及び隣接する街路空間による研究にある、庭空間に公的役割を付与する行動が積極的な人程緑や園芸空間とする利用率も高いこと⁴⁾や、玄関先での栽培意欲が街路空間への植物栽培へ拡大したことが示されている研究^{12), 13)}などと同様である。一方で、園芸愛好家による研究の中で、前庭から街路に至る広い範囲で庭づくりに高い関心があり実際に道路側からの演出を行っていても、自宅での庭づくりが街の景観の向上に繋がるという概念が浸透していないとする研究結果⁹⁾や、家の前に置く植物と建物との調和は考えるが、周辺の町並みとの調和は考えないとする意見が高い割合で示されたもの¹⁰⁾、住居前に違法に植栽された勝手花壇での植栽で季節を感じるようになった・町並み景観がよくなったという意見は多いが、通行障害や継続性への懸念があるもの¹¹⁾もある。このことから、個人の園芸活動よりもOGといった団体で取り組む活動の方が、町並み景観の創出といった意識の伝達が全体的に浸透しやすく、より周辺の町並みとの協調性を持ち、継続性を考えた活動形態になると推測される。

(2) 庭の構成要素の変化

庭の構成要素の変化(図-5)では、「ファニチャー」の変化量において、OGの実施経験の有無で有意差(近似有意確立0.036)があり、それ以外の構成要素に比べ少ないもののOG実施者(+0.69)の方が未経験者(+0.30)に比べ有意に高く増えており、実施者の方が庭に自然的要素だけでなく人工的要素も取り入れた庭づくりをしていることがわかる。全体平均をみると、全ての項目において増加傾向にある。特に、「地植え草花の数」(+1.15)、「草花の種類」(+1.11)の2つがそれら以外に比べて有意に高く増えており、「地植え樹木の数」(+0.71)、「鉢植え樹木の数」(+0.60)といった恒久的な樹木によるものより可変的な草花の数や種類による庭づくりが行われていることがわかる。

(3) 庭の改造

図-6に示す庭の改造は、OGの実施経験の有無による有意差(近似有意確率0.008)があり、OG未経験者の方が「改造なし」

図-7 会員と近隣住民のコミュニティの変化

(52%)が多く、OG実施者の方が「部分改造」(29%)がやや多く、OG経験者の方が庭の改造に熱心であることがわかった。全体的にみると、何らかの庭の改造(「全体改造」(38%)、「部分改造」(22%))は、約6割の会員が実施している。

(4) コミュニティの変化

会員と近隣住民のコミュニティの変化(図-7)は、OGの実施経験の有無による有意差はなく、全体平均をみると、OGの実施及び関連活動以前は「日常的な挨拶」(3.37)が他に比べ高く、次いで「庭の花や緑を通じた会話」(2.97)、「植物の苗や種の交換」(2.57)となっており、庭を介した関係づくりはそれ程活発ではない。OGの実施及び関連活動による変化量では、「庭の花や緑を通じた会話」(+1.14)が一番高く、次いで「植物の苗や種の交換」(+0.78)、「日常的な挨拶」(0.72)となっており、現在は、以前の「日常的な挨拶」に加え、「庭の花や緑を通じた会話」によるコミュニティの段階に変化しており入会目的とも比例する結果となっている。評価項目が異なるため一概に比較できないが、これらの行動は、これまでのOGに関する研究で示された、OG実施者の多くが訪問者との交流を楽しみにしている研究結果^{5), 17)}や、OGの参加者も実施者との交流を行いたいとする意見があるもの¹⁵⁾、園芸愛好家による個人の前庭及び隣接する街路空間による研究の中で、前庭から街路までの範囲で園芸活動を行う効用として人がほめてくれるといった意見が高いものや¹⁰⁾近所との会話や挨拶が増えたもの¹¹⁾、多くの人に声をかけられそれを通じ交流ができる¹³⁾といった報告と同様の結果であるといえる。さらに本研究の結果では、OG実施の有無でコミュニティ形成に差がないことから、庭づくりの愛好家は、個人的な活動及び団体での活動に係わらず全体的にコミュニティ形成に熱心であると推測される。

5. 今後の取り組みについて

OG実施への今後の取り組み(表-7)では、OG実施者は、今後も続ける(再度行なう)傾向にあるものが96%(「続ける」47%、「可能であれば続ける」49%)を占め、その理由として健康上の問題があるものの、人との交流が得られることにやりがいを感じており、交流が盛んになることでさらに意識が高まると考えられる。一方、OG未経験者は、行いたい傾向にあるものが52%(「行いたい」14%、「可能であれば行う」38%)、「行いたくない」が48%と約半々に分かれ、庭づくりの参考になること

表－7 OG実施への今後の取り組み

		項目	度数	割合
OG 実施者 対象	理由	続ける(再度行う)	23名	47%
		・OGが庭づくりのやりがいや励みになっている(11)／・人との交流ができる(6)／・庭の管理がうまくでき庭が向上する(2)／・やらざるを得ない(2)／・まちの環境に貢献(1)／・会員間の連帯維持のため(1)／・人に自分の庭を見てもらいたい(1)／・なし(4)		
	理由	可能であれば続ける(可能であれば再度行う)	24名	49%
		・人との交流ができる(7)／・本人の健康上の問題次第(4)／・OGが庭づくりのやりがいや励みになっている(3)／・庭の管理がうまくでき庭が向上する(3)／・庭に自信がない(2)／・庭づくりの情報収集ができる(2)／・庭づくりが好き(2)／・人に勧められるから(1)／・時期を変えてほしい(1)／・家族の体調が悪い(1)／・家事との兼ね合い(1)／・地域的に離れていてオープンしても交流がない(1)／・留学中でできなかった(1)／・なし(4)		
	理由	続けたくない(行いたくない)	2名	4%
OG 未経験者 対象	理由	・見学者にゆっくりとみてもらえない(1)／・なし(1)		
		項目	度数	割合
	理由	行いたい	3名	14%
		・庭づくりの参考になる(2)／・なし(1)		
	理由	可能であれば行う	8名	38%
		・近隣に迷惑をかける(2)／・多忙でできない(1)／・自信がない(1)／・OGが庭づくりのやりがいや励みになっている(1)／・庭づくりの参考になる(1)／・なし(3)		
OG 未 経験者 対象	理由	行いたくない	10名	48%
		・近隣に迷惑をかける(3)／・庭の形式上適さない(3)／・庭が荒れるから(1)／・個人的なことより地域の緑化に力を入れている(1)／・多忙でできない(1)／・なし(2)		

を利点と考える反面、近隣に迷惑をかけることを多くが気にかけており、近隣住民の理解はOG実施にとって重要な課題であることがわかる。

6. まとめ

(1) OGの実施及び関連活動の推移

OGの実施及び関連活動の活動内容の推移では、会内で活動を軌道にのせ、地域内で啓発するといった第1段階から、行政との連携をさらに強め、他団体・他地域とのより広い範囲での交流が生まれた第2段階に進展している。しかし、会員数は250人前後、実施軒数は80軒前後で停滞している状態である。また、積算軒数より、前年度からの増加率は減少していることから、新規軒数が少ないことがわかった。加えて、OG実施の時系列的変化より、実施の固定化が起こっていることがわかった。これらより、この地域での会員数及びOG実施軒数は限界数に達しているとも推測できる。

(2) OGの実施及び関連活動を通じた意識・行動の変化

本研究においては、OGの経験の有無に係わらずOG実施及び関連活動に参加することで団体会員全体で庭空間の質や量及びコミュニティ形成が一定程度向上していることが明らかとなった。しかし、庭空間の変化は、庭の役割意識で高い園芸活動で季節を楽しむ空間としての役割意識を反映して、可変的な草花による緑化が多く、庭の改造も6割程度に留まっていた。また、OG実施が地縁的な拡がりに至っていないこと及びコミュニティ形成もまだ発展の可能性を残していることがわかった。

ここで、これまでのOGの研究及び個人の園芸愛好家による研究をみると、個人の園芸愛好家の研究の中に、家の前に置く植物と建物との調和は考えるが周辺の町並みとの調和は考えないとする¹⁰⁾などの報告があり、本研究と比較すると街並みの調和といった庭が公的役割を担う空間とする意識においては、OGの活動のような団体で取り組むほうが意識が高いことがわかった。また、コミュニティ形成においては、これまでのOGの研究と園芸愛好家の研究両方の報告にある訪問者や通行人との交流を楽しみにしているという結果^{5), 10), 11), 13), 15), 17)}と同様の結論が本研究でも得られたことにより、個人・団体に関わらず園芸愛好家全般においてコミュニティ意識の形成が高いこともわかった。

7. おわりに

以上のように、本研究では、会員全てを対象に調査を行い、今後のOGの実施及び関連活動の取り組みのための知見を得た。しかし、OG実施者やその他の会員と何らかの関わりや影響を受ける近隣住民に対しての調査は行っていない。今後の課題としては、より詳しいOGの実施及び関連活動の波及効果とOGの実施条件である住民の意識を把握するために、近隣住民に対して庭空間やコミュニティの変化、意識調査を行うことがあげられる。

謝辞

本研究を進めるに当たって、貴重な資料を提供して頂くとともに、アンケート調査にも多大な協力をしてくださった三田花と緑のネットワークの高嶋清子代表並びに関係者の皆様に心より感謝致します。

引用文献

- 1) 三船康道＋まちづくりコラボレーション(2002)：まちづくりキーワード事典：学芸出版社、20-21
- 2) 世古一穂(2000)：市民参加のデザイン：ぎょうせい、88-142
- 3) 林尚貴・川合史郎・浦山益郎(2005)：宅地の庭木や生垣によって形成される緑の景観の経済価値－専有空間のもつ公共性に対する地域共同管理の可能性に関する研究－：都市計画論文集NO.40-3、841-846
- 4) 上村木昭春(1998)：居住環境形成に資する戸建て住宅地の庭空間の公的役割に関する研究：ランドスケープ研究61(5)、793-796
- 5) 野中勝利(2002)：長野県小布施町におけるオープンガーデンの特徴と課題：ランドスケープ研究65(5)、805-810
- 6) Akira AIDA, Tsutomu HATTORI, Isoya SHINJI(2000): Definition of "Open Garden" and case studies in Japan, Journal of The Japanese Institute of Landscape Architecture, International Edition, Vol.1,189-190(poster)
- 7) オープンガーデンみやぎ<<http://www.garden-miyagi.ne.jp/>>, イエローブック岡山<<http://www.arma.jp/yellowbook/>>, オープンガーデニングクラブ東京<<http://www.interaction.co.jp/~opengarden/>>, オープンガーデンいわて<<http://www.asahi-net.or.jp/~de9m-yskw/hp/top.htm>>【各2004/12/29時点】
- 8) 林まゆみ・長谷川利恵子(2005)：宝塚市山本地区を事例とした緑豊かなまちづくりに向けてのワークショップの成果とその検証：ランドスケープ研究68(5)、871-874
- 9) 川根あずさ・愛甲哲也・浅川昭一郎(2000)：北海道恵庭市恵み野を事例とした住民の庭づくりに対する意識と取り組みについて：ランドスケープ研究63(5)、695-700
- 10) 下村孝・船越ゆう紀・高橋ちぐさ(2002)：園芸愛好家などへのアンケート調査によるガーデニングブームの実態調査：農業教育学会誌33(2)、65-74
- 11) 長沼真美・上村木昭春(2003)：神戸市の街路空間における沿道住民による「勝手花壇」の実態と住民意識に関する研究：ランドスケープ研究66(5)、819-824
- 12) 下村孝・小松さち恵・大藪崇司(2004)：京都市における街路樹植樹周辺での住民による植物栽培の実態：人間・植物関係学会雑誌3(2)、6-11
- 13) 大藪崇司・下村孝・小松さち恵(2004)：住民へのアンケートによる京都市内の街路空間における栽培活動の実態調査：ランドスケープ研究67(5)、717-722
- 14) 高橋ちぐさ・下村孝(2005)：京都市左京区の住宅地におけるコンテナガーデニングの実態調査：ランドスケープ研究68(5)、473-478
- 15) 野中勝利(2005)：日常公開のオープンガーデンにおける観賞者の行動特性－小布施オープンガーデンを事例として－：都市計画論文集NO.40-3、847-852
- 16) 平田富士男・橋俊光・望月昭(2003)：わが国におけるオープンガーデンの地域経済への波及効果量の把握に関する研究：ランドスケープ研究66(5)、779-782
- 17) 平田富士男(2004)：オープンガーデン活動に対する行政支援のあり方に関する研究－兵庫県における活動実施者のニーズ分析から－：環境情報科学論文集18、89-94